



赤道こども園(こすもすルーム)の様子



スタッフが制作したパズル



目と目を合わせて心に寄り添う保育



こども一人ひとりが輝く環境づくり

幼稚園からこども園に移行し3年目を迎えました。3歳から5歳の園児が65名在籍していて、私たちはこども一人ひとりを認め、大切に、それぞれが主体性を持てるような保育を心掛けています。

こどもの個性はさまざま。たとえば自然に対峙したとき、葉っぱに興味を持つ子もいれば、虫に関心を寄せる子もいます。「何に興味を持ち、どのように感じ取り、表現するか」を大人は見守って理解し、尊重することが大切です。

こども園への移行に伴い、受け入れ時間が19時まで延び、土曜日の受け入れが始まり、給食の提供対象の拡大など子育てのサポートをより強化しています。保育士のほか、専任の看護師や用務員といった職員

も在籍し、親が安心してこどもを預けられる環境の整備を工夫しています。

昨年からうるま市の公立こども園3園で「子育て支援ルーム」の運用が始まり、0歳から6歳の就学前のこどもと保護者が気軽に遊びに来られる場の提供を行っています。利用登録カードを記入したらその日から利用可能なので、公園に行くような気軽な感覚で遊びに来て頂けたらと思っており、出産を控えた妊婦さんの相談にものっています。

市をあげての子育て支援の取り組みにより、待機児童がゼロになったうるま市。こどもと親を支援する環境を充実させることにより、すべてのこどもたちがのびのびと健やかに育つことを願っています。

うるま市立赤道こども園
園長・玉木利奈さん

行事食

認定こども園等においては、いなむどうちやムーチャーなどの行事食や、特産品を使った食事を提供することで、こどもたちの伝統文化の理解を促し、社会性・感覚の発達だけでなく、特別な日の思い出をつくり、地域愛を育んでいます。特に、細かく切ったもずくと野菜を優しい味で煮つけた「もずく丼」は、こどもたちに大人気のメニューです！

